



# ひこね日和 10

## 今昔まちの姿



▲袋町のカラフルな町並み（筆者作）

以前、「彦根は戦争の被害が少なかったこともあり、今でも昔の建物が多く残っている」というお話を伺ったことがあります。

江戸時代から昭和にかけての古い建物が並んでいる場所もあるため、移住希望者に市内を案内していると驚かれることもあります。

昨年行われたBIWAKO ビエンナーレの会場でもあった「袋町」は、江戸時代は米屋や大工をはじめ、油屋、小間物屋など23種の職種の人々が住んでいたようで、今でも元遊郭などの古い建物が残るノスタルジックな場所だと思います。旅館や料亭、住まいに姿を変えて残っている物件の行まいは、今でも貴祿があり眺めているだけでも楽しめます。

また、小路に並ぶ色とりどりのレトロな看板がとてもポップで、今にはない独特の雰囲気があり、私はそれをかわいと感じます。地元の埼玉にはこういう場所は無かったですし、江戸時代から昭和へと、時代の移り変わりが見られる場所が身近にあるのは他にはないので、貴重な場所だと思います。

歴史的な背景を知ると、普段目にしていない町並みも違って見えますし、町歩きも楽しくなるかもしれません。

【彦根市地域おこし協力隊 小林 由季】

# 広報ひこねをリニューアルします

4月号から月1回発行(1日号のみ)になります

[4月号から]  
**左綴じに**

紙面をより読みやすくするため、冊子を右綴じから左綴じに変更します。

[5月号から]  
**全ページをフルカラーに**

写真やイラストなどをカラーで掲載できるようになるほか、「健康・福祉」「子育て・教育」などの分野ごとにテーマカラーを設けるなど、より見やすい紙面にしていきます。

4月号から表紙もリニューアルしました♪

[5月号から]  
**彦根市ホームページの番号を記載**

広報ひこねに掲載している情報で、彦根市ホームページにも詳しい情報を掲載している場合は、記事のタイトル付近に「ホームページ番号」を表記します。彦根市ホームページのトップ画面に設置予定の「専用検索欄」に番号を入力すると、該当のページに直接アクセスすることができます。

